

アジア共同学位開発プロジェクト

本郷 一夫
プロジェクト・リーダー

東北大学大学院教育学研究科では、平成 23 (2011) 年度から平成 27 (2015) 年度までの 5 年計画で、概算要求特別経費として採択された「東アジアにおける国際的教育指導者共同学位プログラムの開発研究」を進めている。この研究の推進事業名が「アジア共同学位開発プロジェクト」(AJP: Asia Joint-degree Project) であり、今年度はその最初の年となる。

本プロジェクトでは、国際的教育指導者養成の共同学位創設を目指した研究拠点を形成し、質の高い共同学位プログラムを開発することにより、東アジアの教育課題に対応できる国際的視野を持った指導的人材の養成を目指している。より具体的には、東アジアを中心に据え、①その教育の現状を的確に分析できる教育研究者、②その教育課題を認識し、教育現場で教育実践を担うことができるリーダー教員、③世界の教育改革を視野に収め、政策立案に携わることのできる教育行政関係者、などの人材を養成しようとするものである。このような国際的教育指導者には、①高度な専門的な知識 (Knowledge)、②東アジアに対する理解と共感的態度 (Attitude)、③東アジアの言語の習得と教育研究技法 (Skill)、④世界に開かれた人的ネットワークの形成と情報発信 (Practice) といった 4 つの資質と能力、いわゆる KASP が求められる。

このような目的を達成するために、本プロジェクトでは、最初の 3 年間で、①専門性の向上を目指した国内外の教員による共同セミナーの開催、②東アジアの有力大学との国際交流プログラムに基づく教員・学生の派遣・受け入れ、③共同学位のプログラムの開発研究を進めていく。さらに、事業の 4 年目、5 年目に当たる平成 26 (2014) 年度、平成 27 (2015) 年度には共同学位プログラムを試行的に実施する計画を立てている。

このような全体計画のもと、本年度は、大きく以下の 5 つの取り組みを行った。

第 1 に、実施体制の整備である。まず、人的体制としては、プロジェクト専任助教 2 名、教育・研究支援者 2 名、事務職員 1 名の採用を決定した。また、環境整備として、教育学研究科の 2 階にプロジェクト事務室を置き、教育・研究支援者 2 名と事務職員 1 名を事務局員として配置した。さらに、プロジェクトの推進体制として、プロジェクト・リーダー (本郷一夫)、サブリーダー (小川佳万、清水禎文) を定め、プロジェクト全体会議とプロジェクト推進会議を位置づけた。平成 23 (2011) 年度は全体会議を 5 回、推進会議を 14 回開催するとともに、必要に応じて、プロジェクト・リーダー、サブ・リーダー、プロジェクト専任助教、事務局員からなるスタッフ会議を開いた。

第 2 に、海外調査・国内調査を行った。15 回の海外調査では、中国、韓国、台湾といっ

た東アジアの国々における複数回の調査に加え、シンガポール、マカオ、さらにはオーストリア、ベルギー、ドイツ、スペインなどのヨーロッパの主要大学を訪問し、調査を行った。アジアにおける調査は、主として、大学間連携と部局間連携を通じた共同学位のための授業やカリキュラムについての意見交換が目的であった。一方、ヨーロッパにおける調査は、主としてエラスムス・ムンドゥスの進行状況、ノウ・ハウ、問題点などを探る目的で行われた。国内調査は2回行われた。優れた取り組みを行っている立命館大学の環境整備状況の調査、学生へのインタビューなどを通して今後の研究交流等への手がかりを得ることができた。

第3に、客員教員の招聘を行った。イギリスから1名、韓国から4名、中国から2名の計7名の客員教員を招聘した。滞在期間が1か月程度と短い客員教員の方もいたが、客員教員の講演を中心とした国際セミナーに加えて、直接の意見交換が出来たことは、本プロジェクトにとって有益であった。来年度は、学部・大学院の授業を担当する教員を招聘する計画を立てている。

第4に、国際シンポジウムを3回実施した。平成23(2011)年7月に実施した発足記念シンポジウム「アジア型エラスムス・ムンドゥスの可能性 — 国際的共同学位開発プログラムによる高度職業専門人の養成 —」に始まり、12月には中国、韓国、台湾の有力大学7大学の教員を招いてのシンポジウム「国際的共同学位による新たな人材育成の可能性」を実施した。このシンポジウムでは日本語、中国語、韓国語、英語の同時通訳を導入したこともあり、共同学位のメリットとデメリットを含めてより実質的な議論を展開することができた。さらに、3月末には中国、韓国、台湾、シンガポールなどで活躍している教育学研究科の卒業生を招き、本プロジェクトについての意見交換と今後の協力体制について検討する予定である。

第5に広報活動である。本プロジェクトを広く知ってもらうために、日本語と英語のニューズレターの発行、ホーム・ページの開設を行った。また、平成23(2011)年度の活動をまとめた冊子を3種類作成し、関連機関に配布した。

東アジア及びASEAN諸国の有力大学と連携し、東アジアにおけるリーダー養成のモデルとなる国際的教育指導者共同学位プログラムの開発を行うことを目的として始まった本プロジェクトは、2年目の平成24(2012)年度には当初の予定にはなかった新たな試みを加えることを計画している。第1に、サマー・プログラムの実施である。平成24(2012)年8月に、東アジアの連携大学から大学院生を招き、日本人学生と一緒に学ぶ英語による授業を実施する予定である。第2に、遠隔地授業システムの導入である。東アジアの国々は日本とは大きな時差がないことに着目し、2つ以上の国で同時に授業を進めながら学生同士のディスカッションをしていこうとする試みである。

このように、これまでの継続と新たな取り組みに着手しながら、来年度以降も「アジア共同学位開発プロジェクト」を推進し、研究者の交流、学生の交流を通じて、より質の高い大学院教育を達成するための共同学位プログラムを作っていきたいと考えている。

(1) アジア共同学位開発プロジェクト

国際シンポジウム 2011.12.09
国際的共同学位による新たな人材育成の可能性

アジア共同学位開発プロジェクト Asia Joint-degree Project

(東アジアにおける国際的教育指導者共同学位プログラムの開発研究)

東北大学大学院教育学研究科

本郷 一夫

(2) 共同学位開発の構想

共同学位開発の構想

国際水準のアウトカムの質保証

連携大学との協議を通して、大学院教育の質を保証し、質の高い教育指導者を養成する

- 単位認定基準の明確化
- タームペーパー・修士論文の質の共同管理・質保証
- ポートフォリオによる学習歴の管理

研究・教育交流の深化

研究者交流: 研究上の交流に加えて、教育上の交流

- 共同学位プログラムの共同開発により研究者のネットワークが深化する

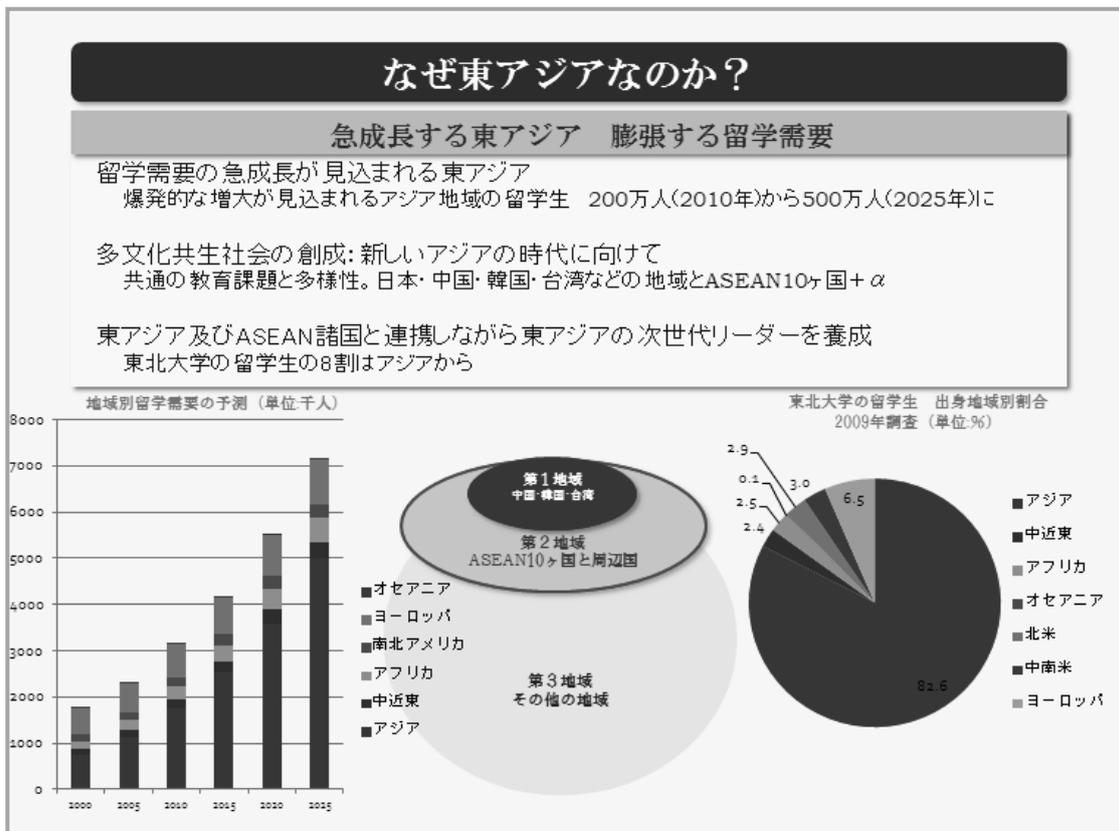
学生交流: 日本人学生の意識変革

- アジア諸国の学生との共同の学びを通して、世界に目を向ける次世代リーダーを育てる

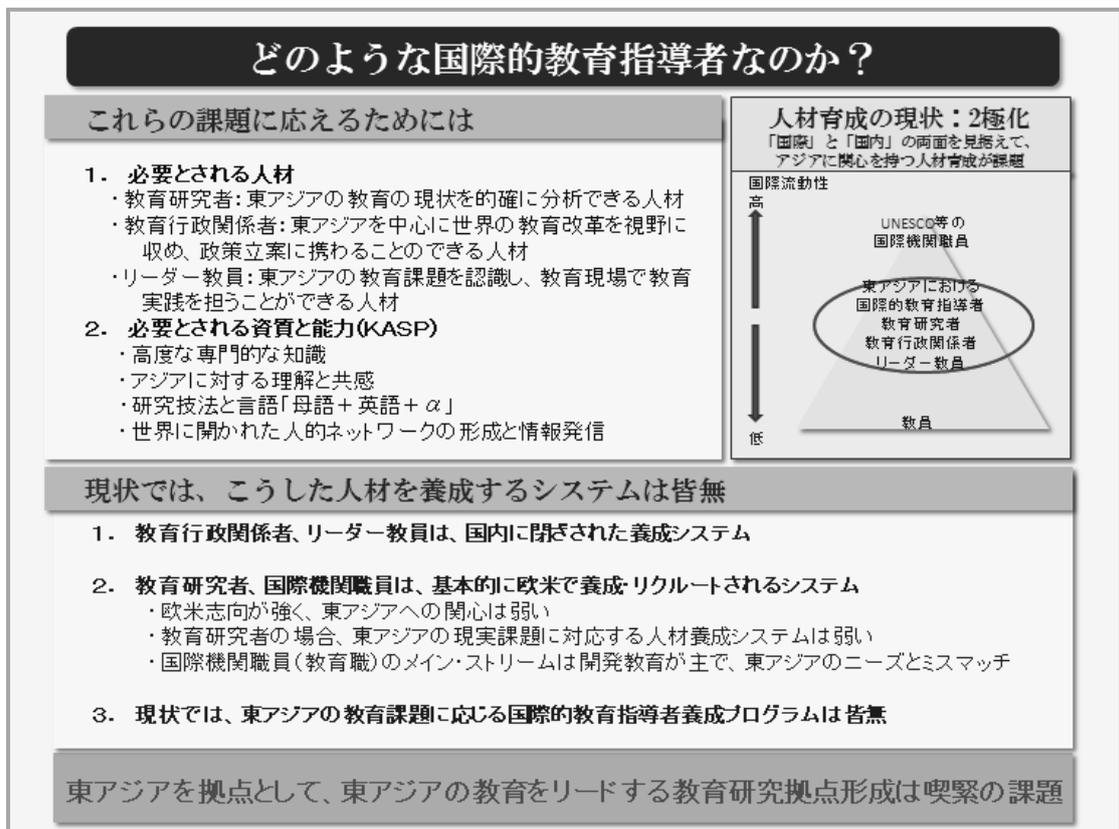
ネットワーク形成: 国境を越えた人的ネットワークの構築

- 人的ネットワークを形成するには、単位互換や短期留学よりも、共同学位が有効

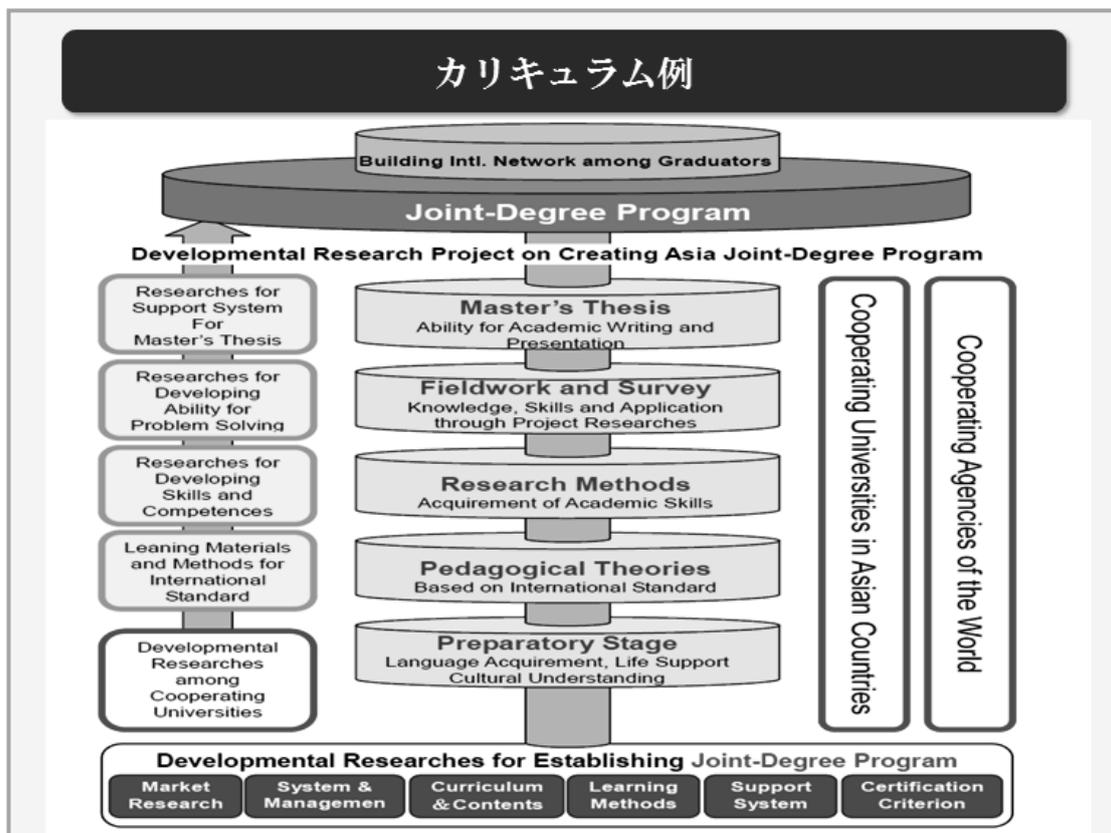
(3) なぜ東アジアなのか？



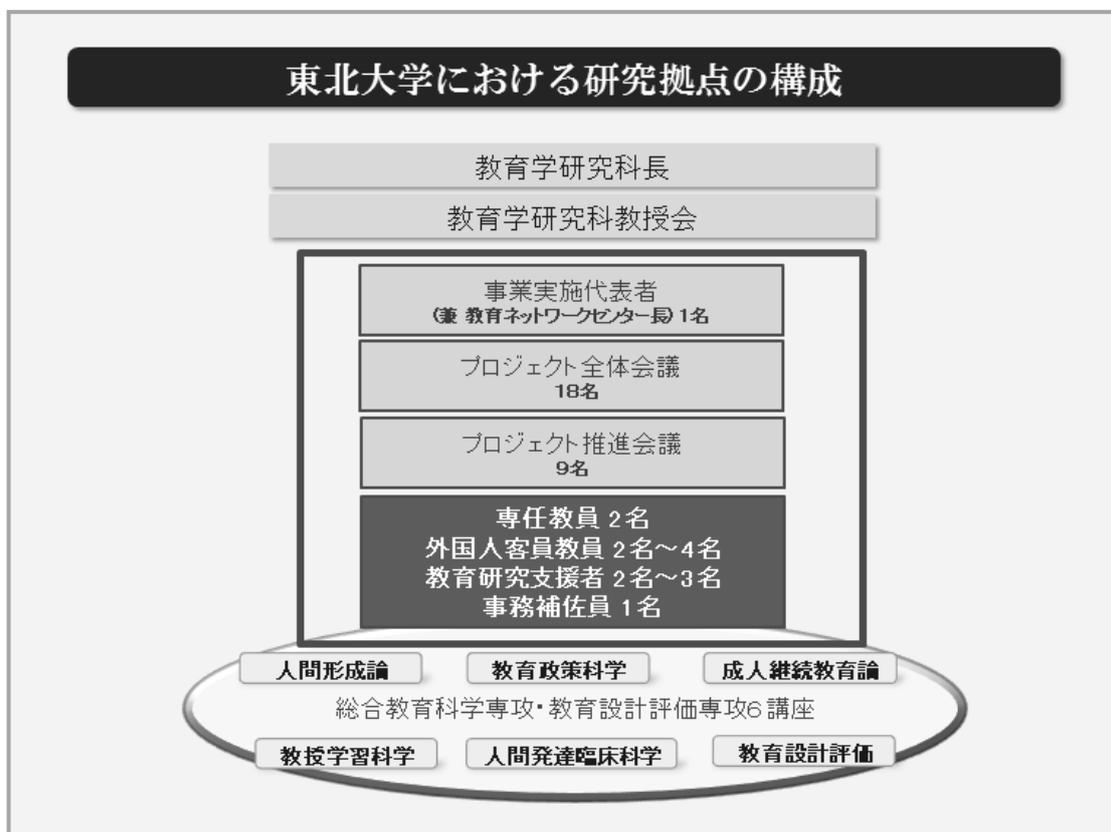
(4) どのような国際的教育指導者なのか？



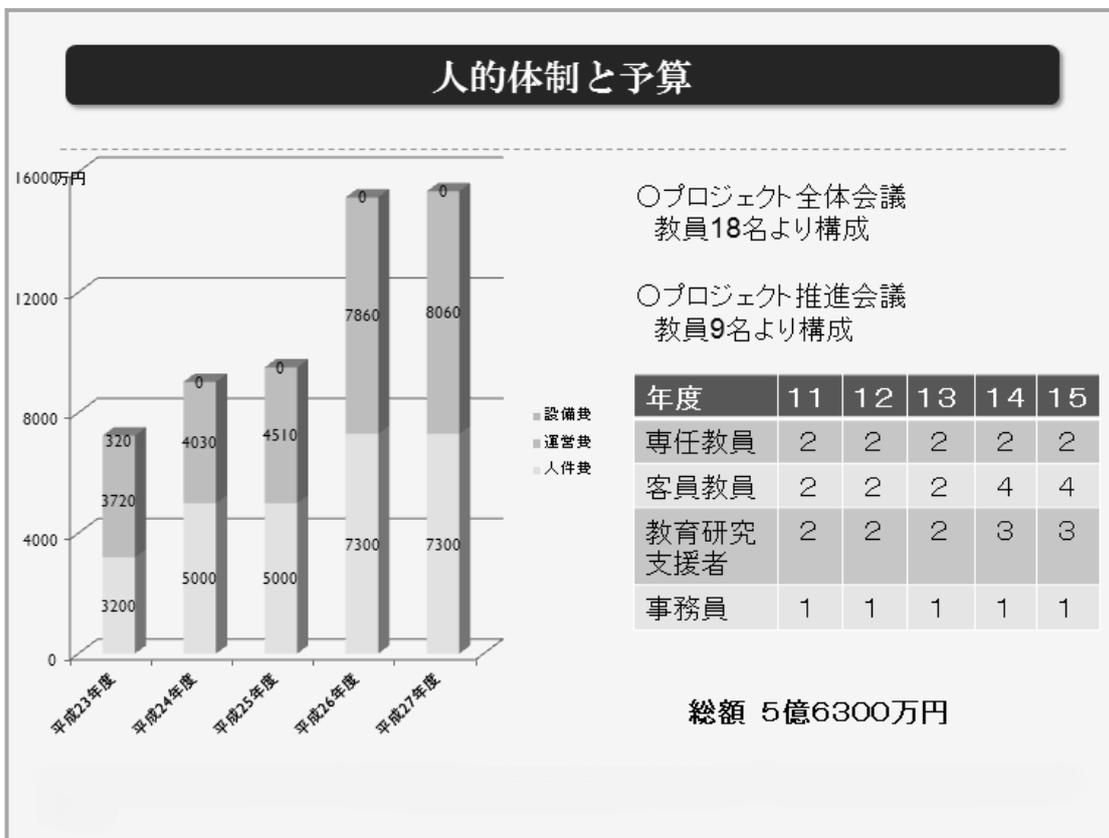
(5) カリキュラム例



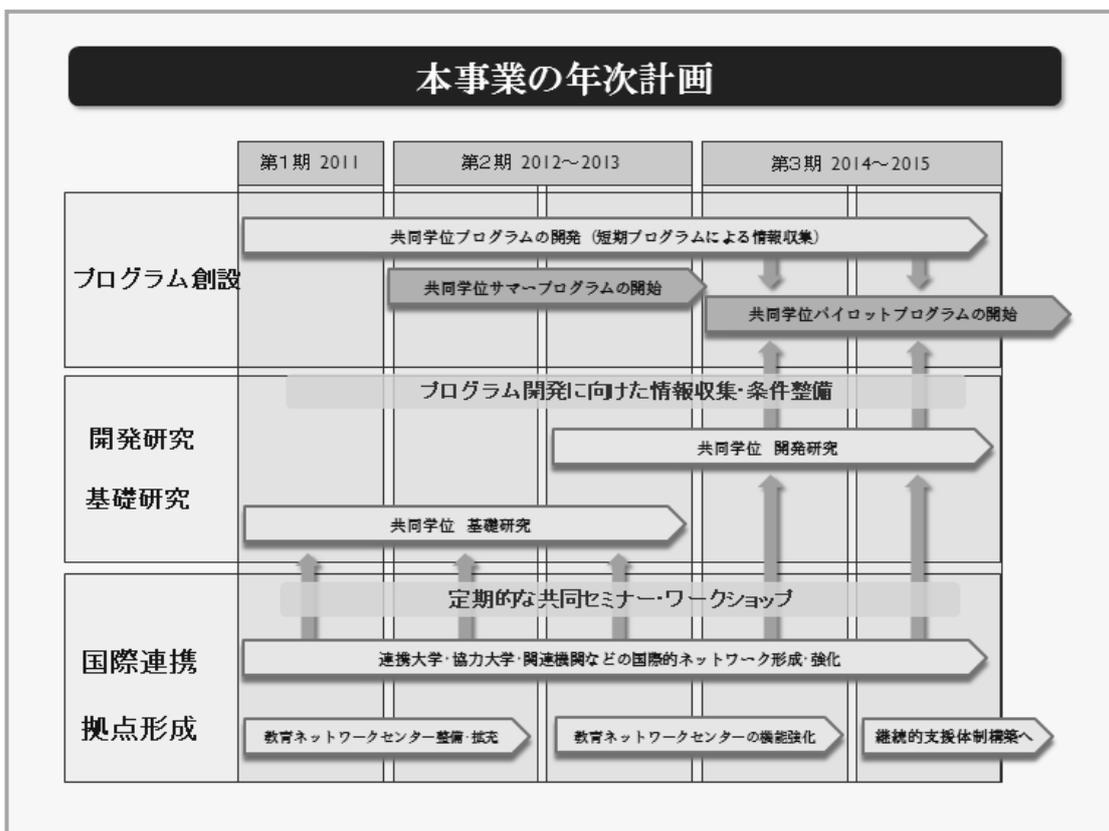
(6) 東北大学における研究拠点の構成



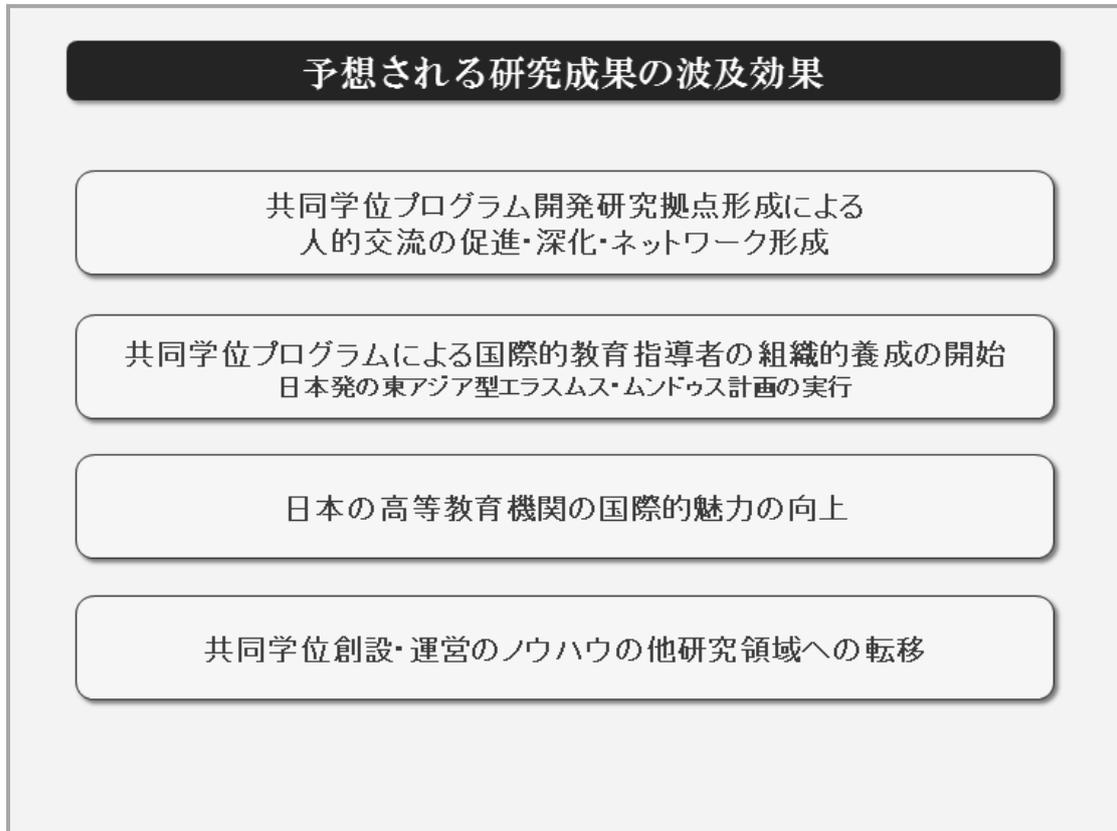
(7) 人的体制と予算



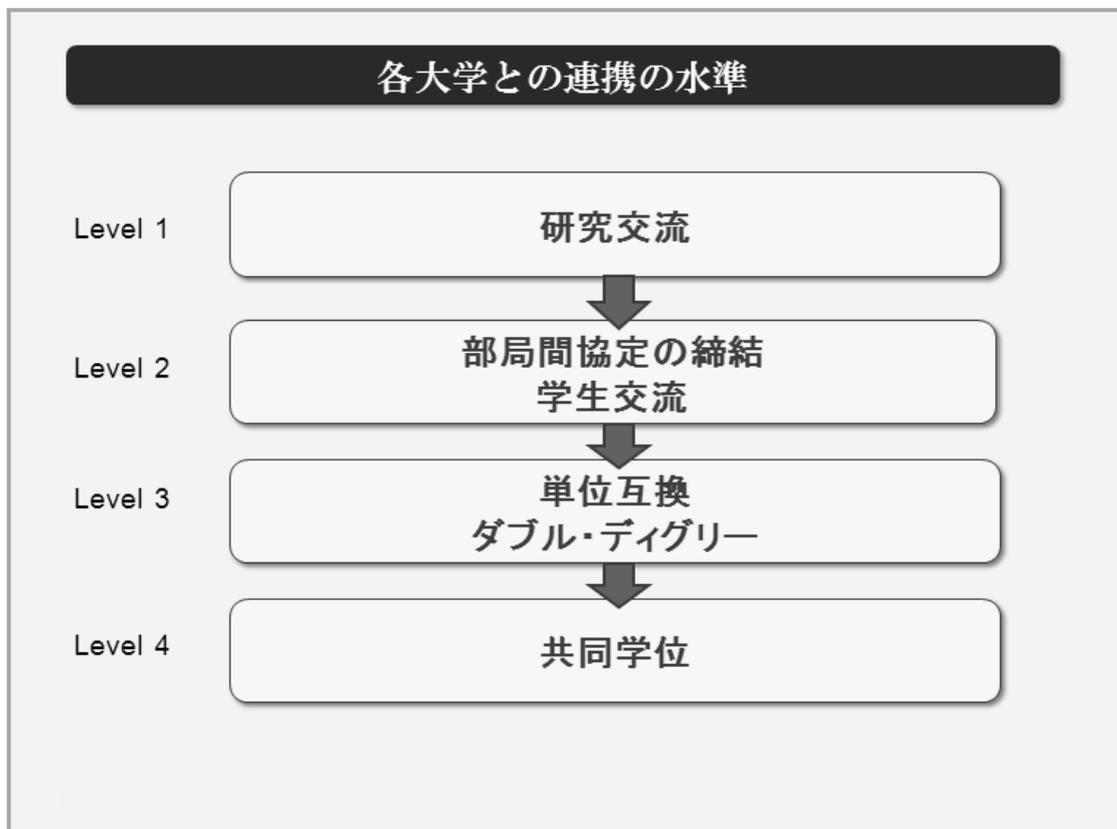
(8) 本事業の年次計画



(9) 予想される研究成果の波及効果



(10) 各大学との連携の水準



3～7 ページに掲載したものは、アジア共同学位開発プロジェクト国際シンポジウム「国際的共同学位による新たな人材育成の可能性」（2011年12月9日開催）における基調講演の際の資料である。